



コロナ禍で進む ICT（情報通信技術）の活用！！

ここ数年、国や行政等でもICTを導入しましょう！とよく耳にしますが、自治会で導入する場合、どのようなことが出来るか書いていきたいと思います。

ICT（情報通信技術）とは…PC（パソコン）だけでなくスマートフォンなど、さまざまな形状のコンピュータを使ったコミュニケーションのことです。「ICT」なんて難しい言葉だと取っ掛かりにくいですが、パソコンやスマートフォンを活用したコミュニケーション手段と考えると少し使えそうな気がしませんか。



実際、どんなことに活用すれば良いの？

1. コロナ禍で住民同士の繋がりが停滞していると思います。大勢集めての会議にも不安…

そんな時は…**オンライン会合（WEB会合）**

- メリット**：★お手持ちのパソコンやスマートフォンで気軽に参加できる★
★直接触れないので、マスクも必要なし！自宅以外からも参加できる★
★対面式の会議より、早い時間で終わり充実した会議になる★（経験談）
※ハードルが高いイメージがありますが、実際にやってみるとそんなに難しくはありません。



2. 紙の書類って保管や処分に困るのよね…

昨今、SDGs（再生可能エネルギー）で紙削減の動きもあるし

そんな時は…**書類を電子データ化して**

ネット上に保存（クラウドの活用）

- メリット**：★紙の書類が減り管理が楽になる★
★写真や文書をネット上に保存して必要な時に確認ができる★
★情報共有が楽にできる★

3. コロナ禍で回覧板を回すのも気が引けるのよね…いろいろな方が触るし感染が心配…

そんな時は…**SNSの活用！**

（Facebook や Instagram、LINE）

- メリット**：★自治会のホームページを作成しなくても、スマートフォン等から気軽に情報発信ができる★
★コロナ禍で人と接触しなくても情報共有ができる★
★自分の都合のいい時に情報の確認ができる★

昨今、自治会の高齢化等が課題とされている中、ICT（情報通信技術）を導入するのは難しい…という、お声が聞こえてきそうです。自治会内には、若い人材がたくさんいます。回覧板等でお声かけしたら、主婦の方等、SNS等を生活に取り入れている方が講習会をしてくれるかもしれません。

社協でも、ボランティアをご紹介することができますので、お気軽にお問合せください。

問合せ先：ボランティア市民活動相談窓口 て・と・り・あ 7185-5233



自治会費の集金業務 大変ですよ？

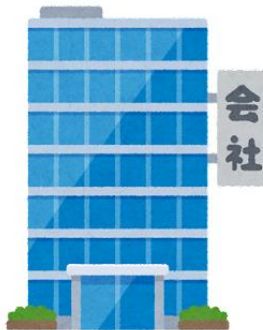


- ◎何度、集金に行っても住人と会えない…
- ◎留守電に残しても返事がない…
- ◎ポストにお手紙を入れても音沙汰がない…
- ◎集金に来てもらったのに留守して申し訳なかった…等、

双方に負担やストレスを感じますよね！

こんなお悩み解決に朗報！！

代金収納企業（銀行や銀行子会社）を活用して、口座振替にすればストレスフリーに♪



代金収納企業とは…銀行や銀行の子会社が自治会に代わり、登録された「口座振替依頼書」に従って集金してくれるサービスです。

代金収納企業によっては、コンビニ決済サービスを行っているところもあり、手軽に支払いが出来ます。コンビニ決済サービスなら名義変更や口座変更等の手続きをしなくて済み、とても楽に集金が出来ます。

	メリット	デメリット
代金収納サービス	★集金業務の負担軽減（役員）	★会員への周知が大変
	★現金管理トラブルの回避ができる	★手続きが難しい世帯がある（高齢者・外国人世帯等）
	★コンビニ決済サービスも対応	★代金収納企業を使う手数料がかかる ※手数料は会社により違いあり
	★コロナ禍、非接触で集金出来る	★転入・転出の手続きがある

自治会費の支払いに「ペイペイ」や「LINE ペイ」等の電子決済システムを導入している自治会もあるようです。若い世代は、生活の一部として活用している「電子決済システム」を自治会費の支払いに活用できたら、加入者も増やせるかもしれませんね。

ぜひ、各自治会に合ったシステムを検討してみてください。

